



南十字星だより



No.3 平成26年8月26日

シンガポール日本人学校チャンギ校

加藤幸平（平成25年度派遣者）



シンガポール日本人学校に赴任して、2年目となりました。本年度も特別支援教育コーディネーターと情報教育主任をしています。今回は、本校の特別支援教室の改編と ICT 教育の研究、そしてシンガポールの食文化についてお伝えしたいと思います。

小学部クレメンティ校玄関



1 特別支援教室の改編

シンガポール日本人学校は3つの校舎に分かれています。小学部はシンガポールの西側がクレメンティ校、東側がチャンギ校の校区となっています。中学部は、国内に1校だけです。ほぼ全員がスクールバスで登下校しています。

その中で、特別支援教室は小学部チャンギ校にのみ設置されています。よって、特別支援教育コーディネーターの私は、チャンギ校を中心に特別支援教育を推進し、学校間の連携を図る役割も担っています。日頃は、直接児童に接する機会は少ないですが、配慮を要する児童が増えているため、状況に応じて、児童・生徒への直接的な指導支援を行うこともあります。



5年生ブキティマ見学より（シンガポールで一番高い場所です）

特別な支援を要する児童生徒は、日本と同様に増加傾向にあり、一人一人の課題も多様化しています。そこで、チャンギ校の特別支援教室は、本年度より特別支援学級教室（ドリーム）、通級教室（ステップアップ）、さらに個別指導教室（トライアングル）の3形態で支援する体制へと改編を行いました。通常学級では、ユニバーサルデザインの授業づくりを目指し、全職員で生活単元学習や自立活動についても研修を行っています。

2 ICT 教育の研究

昨年度12月、私の受け持った2年生の学級に試験的に大型フラットTVを置き、iPad

air (apple TV で接続) と PC (HDMI で接続) を活用した国語、算数の授業研究を 4 か月間実施しました。すると、児童の国語・算数の学力向上や学習意欲の高まりが見られるなど、多くの成果が見られ、保護者の方からも評価いただきました。



本年度は 4 月から全 30 学級に同様の設備を整え、授業者全員が ICT 機器を活用した授業に努めています。1 学期は、効果のあったアプリの共有化やデジタル教科書の活用などに取り組みました。2 学期は、Mac book や児童用 iPad、Chrome book を導入して ICT を駆使した授業づくりへと発展させていきたいと計画しています。この ICT 教育は、現地校のフューチャースクール「Beacon School」と Apple の公式サイトでも紹介されている「南洋女子中学校」を参考にして実施しているところです。

また、児童数が約 900 人、教職員数が約 50 人と規模も大きくなり、チャンギ校は教育事務の効率化にも取り組む必要性が増しています。そこで、Excel を使って学籍情報管理や通知票作成、時間割などについて順次改善を図っていく予定です。

3 シンガポールの食文化

シンガポールは外食産業が盛んです。ホーカーやフードコートと呼ばれる屋台では、マレーシアや中国、韓国、インドなど各国の料理を安く食べることができます。新嘉坡 (シンガポール) といえば、ラクサ (写真右) とチリクラブ (写真下) など、中国とマレーシアの融合的な料理です。



また、ホテルに行くと、アフタヌーンティやビュッフェを楽しむこともできますし、近所のデパートやモールでは、スターバックスとモスバーガー、ラーメン店など日本でも馴染みの深いお店を見かけます。MRT (地下鉄の駅) のコンビニは、セブンイレブンが主流のようです。このように、シンガポールでは「日本食」が大人気です。たこやき屋や回転寿司などのお店が、次々にオープンしていきます。日本食材自体の購入は、高島屋や明治屋といった百貨店が有名ですが、フェアプライスやコールドストレージといったスーパーでも、日本食材の販売が増えています。

さて、シンガポールの英語を「シングリッシュ」と表現することがあります。世界中から来た人たちが、共通言語として英語を使っていますから、発音のちがいが大きいです。そこで、次回は本校の英語学習やシンガポールの観光地について紹介したいと思います。

SEE YOU NEXT TIME !!

